

意見発表者2(会場①千葉県香取市)

意見の概要

関東地方整備局が発表した八ツ場ダム検証結果は、「予断なき検証」という触れ込みとは180度逆の、「予断だらけの検証」である。ダムが計画された60年前とは異なり、1都5県の水需要は減少の一途をたどっている。まず水需要を精査することから始めなければならないのに、今回の検証はこれを全く無視。一足飛びに「水は不足している」という前提からスタートしている。従って、「では、どこから水を引いてくるのか？富士川か？」という荒唐無稽な答が導き出されるのである。治水にしても、八ツ場ダムの流量カット効果はハ斗島地点でわずか13センチの水位低下しかない、という市民団体の指摘に、国は反論するどころか黙認している状況。それにも関わらず、過大な洪水調節効果を提示するとは、非科学的としか言えない。真の洪水対策は、利根川流域の堤防補強と河道改修であることは論をまたない。国は検証の抜本的見直しを行うべきである。